きものとなつた。卽ち、社會民主黨との勞働階級統一戰線を擴大すると共に、更にプチ・ブル階級及び農民諸層の「フアツシズム」に走るをおそれて、これ等社會層を代表する政黨をまで引き入れ、所謂「人民戰線」を結成して大同團結主義を執り、かつ妥協的態度を裝つて、各國社會の各層を縱斷せしむる合法的な欺瞞手段を包含するものとなつたのである。

歐洲赤化網の强襲　コミンテルン執行委員會幹部會にヨーロツパ部といふのがあつて、西歐、中歐、バルカンの三部門にわかれ、ドイツにナチスの出現前までは、對歐宣傳の參謀本部ともいふべきヨーロツパ局がベルリンに設置されてゐた。

何故ドイツに「コミンテルン」が注視したかといふのは、大戰に敗北したドイツが植民地を失ひ、復讐に燃ゆる新興氣分の窮乏ドイツが、次第にヨーロツパの現狀打破をめざし、この點にソ聯と相通ずる點があつたゝめに、他國に比して共產主義運動がしやすかつたからである。

ヨーロツパ諸國に對する赤化を宣傳する機關紙として、英・佛・獨の三ケ國語のインプレコールを發刊するほか、東歐バルチツク、バルカン諸國に對する共產主義者養成のためにモスコーに「マルフレフスキー」西方小數民族共產大學を設立して、ポーランド、チエツコ・スロバキア、ル

ーマニア諸國の共產主義普遍に力を注いだ。

しかし、一九三三年ヒツトラーがドイツ共和國の第二十一代宰相となつて逆卍字旗を飜へすやドイツに於ける共產運動は大彈壓をうけ、「コミンテルン」のヨーロツパに於ける第二の故鄕は、忽ち、不俱戴天の仇敵に變貌し、その勢ひは暫時驚異的な影響をヨーロツパ諸國に及ぼし、今や「反共プロツク」結成の一大脅威的對立となつた次第である。。

斯くて、尖銳化した「共產」と「フアツシヨ」の對立は、各國にその勢力の軋轢が次第に激化して行き、その色彩も漸く變貌して行くものが多くなつたことは、前述の「フアツシヨか、共產か」の章に於いて記した通りであるが、現在、最も全的に「コミンテルン」卽ち赤色ソ聯邦の影響下にある國は、チエツコ・スロバキア、ポーランド、トルコ等であらう。

一九二〇年九月に成立したチエツコ・スロバキア共產黨は、一九二八年の「コミンテルン」第六回大會當時既に黨員數百五十萬に達し、ソ聯邦共產黨に次ぐ勢力を形成し、一九三五年の議員選擧に於て、統一戰線の結成進出によつて八十五萬票の大多數を獲得し赤一色に塗り潰して了つた。かゝる狀態であるから、ソ聯邦は玆にもつと矚目し、一九三五年佛・ソ相互援助條約につ

いで、ソ・チ同盟を締結したほどである。

ポーランドにも一八一八年十二月十六日成立の共産黨があり、その後祕密組織であつたものを公然と統一戰線に押し進め、次第に黨員を增して共産黨員のみで四萬を數へ、漸次民衆に接近して、ソヴイエート・ポーランドの一城廓をなさんとする程の氣勢を示してゐる。

又、トルコに於ても、一九一九年、コンスタンチノーブル、アンゴラ、バキンに於ける三〻産主義團體を合併して共産黨を結成し、ソ聯邦の指導下に着々と躍進をみせて來てゐる。トルコは元來、工業の發達が遲れて居り、工場プロレタリアが少いので、共産運動の客觀的條件が稀薄なため、ソ聯はトルコの西歐諸國に對する反感を利用し巧みに民族運動から共産運動への移行を企てゝゐるのである。

この他、一九二七年リスアニア共和國タウロギに於て暴動を起したリスアニア共産黨、一九三四年十月武裝鬪爭に見遁し難い政治的任務を果たし、三六年七月以來驚天動地の內亂を續けてゐるスペイン共産黨を支持煽動するなど、「コミンテルン」卽ち「赤色ソ聯邦」の赤化强襲は愈々熾烈を極めて來てゐるのである。

フランス人民戰線の親ソ傾向　歐洲に於ける「コミンテルン」の最新の活動は、所謂「人民戰線」運動の展開となつて現はれてゐるが、その本家はフランスであるといへやう。

一九三六年四、五月の下院總選擧に人民戰線の壓倒的勝利が見られたばかりでなく、コミンテルンの支部である共産黨自體が一躍七十名の議員當選者を出すといふ極左振りを示し、六月はじめに左翼人民戰線政府新內閣の出現となつた。第一黨の社會黨（第二インター支部）と第二黨に後退した急進黨との聯合を主とした政權は、しかし、單に閣外與黨の地位にとゞまつて入閣を肯んぜず、控目にしてゐる共産黨の巧みな戰術に次第に引き入れられて、漸次親ソ的傾向をあらはして來てゐるのである。かくて一方において、人民戰線を一つの手段、道程として己れの理想への到達に向つて最大限に利用すべく政府を牽制すると同時に、一方に於てはファシスト勢力の擡頭に對して巧みに機會を封じ去るやうに、自制的に人民戰線のかいゝところを引き締めてゐるフランス共産黨の手際は、相當注目すべきものがあらう。

英國への觸手網　一九二七年來斷絕してゐた英・ソ國交は、二年後の一九二九年英・ソ協定の成立とゝもに復活した。これと同時に英國に於ける「コミンテルン」の赤化工作は再び尖銳化

するに至つた。その對英赤化に關する實證は、一九三五年夏モスコーに開かれた「コミンテルン」第七回大會で公然と發表された。卽ち「コミンテルン」の首腦者の一人、デイミトロフの演說中に具體的に明示された。

「コミンテルン」の將來の對英政策は差し當り所謂擧國一致內閣を打倒するといもに、ロイド。ジョージの如き自由主義者を排擊し、共產主義政權獲得への過渡的手段として新勞働黨內閣の出現を期待する。そして「コミンテルン」の支部たる英國共產黨をして勞働黨及びトレード・ユニオンの英國大衆に組織的積極的に働きかけ、野望達成の機の熟するを待つといふ浸潤主義による用意周到なる赤化戰術を執りつゝあるのである。

さらに英國共產黨は今や獨力にて英國に於ける階級鬪爭を指導し得る地步を獲得するに至り、獨立勞働黨との統一戰線決議によつて人民戰線への第一步を固め、職業組合における地位の强化及びプロレタリア革命の宣傳に從事するほか、機會ある每にストライキ鬪爭の煽動及び指導を敢行し、經濟鬪爭より政治鬪爭を誘導し、勞働大衆間に於ける共產主義思想の傳播及び勢力扶植に努力しつゝある。

又、英本國の羈絆より脫せんとする運動により、不穩なる政治的及び社會的情勢の絕えざるインドは久しい間「コミンテルン」の赤化工作の重要地點として狙はれて來た。一九二三年三月二十三日、「コミンテルン」の執行委員會はインドの革命誘發に關し、全世界のプロレタリア及び被壓迫民族に宛た長文のマンフエストを發表し、その奮起を促したが、越えて一九二八年の「コミンテルン第六回大會では、インドの革命に關するテーゼを採擇した。この植民地革命に關する綱領に基き、忠告文と決議文を可決し、インド共產黨にそれを傳達して同志の大同團結を促した。あたかも當時入露中であつた日本人共產主義者佐野學は、「コミンテルン」の命を受け、前記の決議文と「モツプル」からインド共產黨に軍資金として送られる米貨一萬ドルを托されてインド入をした。佐野は一九二八年十二月三十日モスコーを出發、ベルリン經由、翌年二月コロンボに到着し、同市でインド共產黨中央執行委員ダーゲンほか二名の共產黨員と極祕裡に會見して、「コミンテルン」の決議文と資金を手交したのであるが、これは彼が就縛後東京地方裁判所で自白した事實である。

斯くの如く、近年インドに於ける「コミンテルン」の暗躍は極めて組織的で、一九二九年春以

來ボンベイその他諸市に起つたストライキの背後にもその魔手が盛んに延べられたことは明かである。

アメリカ共産宣傳の實際　米國共産黨を煽動して正面的に赤化工作を期しつゝあるほかに、「コミンテルン」は更に怖るべき祕密機關を通じて陰謀を逞しくしてゐるといふ事實が暴露された。

それは、ニューヨーク市の中心第五街に堂々たるオフィスをもつソヴィエート聯邦政府の貿易機關たる「アムトルグ」の存在であるが、これは米・ソ間の圓滿なる通商取引をなす爲におかれた純然たるソヴィエートの官營商館であるが、それは表面の看板であつて、實は「コミンテルン」指令下に暗躍する北米赤化宣傳及び工作の本據となつてゐるのである。米國共産黨が合法黨として政治運動を通じ勞働者農民及び一般民衆に働きかけるのと相俟つて「アムトルグ」は潛行的に裏面からアメリカの社會秩序攪亂に努めつゝある。その事實は一九三〇年、時のニューヨーク市警察部長ホエーレンによつて曝露された。卽ち同年五月ホエーレンは「コミンテルン」の幹部員たるフォードロフより一九二九年末ニューヨークの「アムトルグ」前理事長ブロン及び同會計主任グラブフエンに宛た露語の祕密指令、及びグラブフエンより翌三〇年三月十日附フォードロフに宛た

祕密文書を發表した。

それは次のごとき內容の陰謀を指令してあつた。

一、米國共産黨に赤化宣傳資金の交付方を命じたこと。

二、米國各地に失業者が增加しつゝあるに乘じ當時最も窮狀にある中小工業勞働者に軍資金を提供してストライキ及びデモを行はしむるやうに命じたこと。

三、モスコーのコミンテルン本部より直接アメリカ宣傳員を派遣したこと。

四、時の「アムトルグ」理事長ボグダフ及びグラブフエン等に赤化運動に關する指令を與へたこと。

このやうに「アムトルグ」は寧ろ米國共産黨の上層に立つ對米赤化工作の本部である。それは單なる一片の文書ではなく、直ちに實行に移されて、共産黨の所謂街頭細胞及び工場細胞は漸次その組織化を擴大して行つた。當時フーヴァ大統領の共和政權で「コミンテルン」の赤化宣傳及び工作は正に絕好の機會に惠まれたといつてよい情勢であつた。

「コミンテルン」が米國共産黨を通じてどの位喰ひ入つてゐるかといふに、先づ勞働組合統一聯

盟を足場として各方面の勞働組合に細胞を植付け、從來多くのストライキを指導してゐる。また米國最大の勞働組合たる米國勞働總同盟の左翼分子と連絡を保ち、總同盟を切崩さんと絶えず努力してゐる。そして米國共産黨が指導した主なるストライキは次のやうな大規模なものがある。

一、一九二六、七年ニューヨークに於ける衣服工業勞働者ストライキ（參加人員三萬五千人）及び毛皮職工ストライキ（參加人員一萬二千人）

二、一九二六、七年パザイツク織物職工トライキ。（參加人員一萬五千人）

三、一九二七、八年米國合同鑛山勞働者のストライキでは少くとも十萬人の鑛夫が共産黨の指導に從つたといはれる。

四、一九二九年ガストニア織物工業勞働者のストライキ。（共産黨系、ナショナル。テキスタイル勞働者組合指導）

五、一九三一年二月ローレンス織物工業勞働者ストライキ。（同上）

六、一九三一年ニューイングランドの織物工業諸都市に於ける約十のストライキ指導。

七、一九三一年春期及び夏期にペンシルヴァニア州西部オハイヨ州東部ヴアジニア州北西部に

於て約三ケ月間四萬人の鑛山勞働者ストライキを指導。

八、一九三二年ケンタツキー炭鑛のストライキ指導。

以上の外に、數年間に亘り頻々として行はれるアメリカ西海岸諸港に於ける沖仲仕のストライキにも、共産黨は「コミンテルン」の指令を仰ぎ猛烈にアヂを行つてゐる。

一九三三年十一月、幾多のソ聯の赤化暗躍に對して、米國政府は强硬抗議を通達警告した「コミンテルンに關しては何等の責任を執ること能はず」

ソヴイエート聯邦政府はこのやうに「コミンテルン」とソ聯邦政府とは全然別個のものであるとして、米國の抗議を一蹴したゝめ、米ソ外交關係は以來大きな龜裂を生じたのである。

東洋の赤化を曝く

狡猾なるソ聯の祕密工作　ソ聯が世界赤化政策を實現させるために、「コミンテルン」を利用してゐることは疑ひをさしはさむ餘地のないところで、その赤化機關は全地球の隅々にまで蜘蛛の巣の如き盲網となつて張りめぐらされてゐるのである。

執行委員會內部にある東洋部は、一九二八年の「コミンテルン」第六回大會の折改組されて、極東部、中東部、近東部に分けられ次の如き陣容となつてゐる。

東洋部　部長クーシネン

中央部(印度)　部長　シユービン

極東部(日本、支那、朝鮮、クイリツピン)　部長　ミフ

近東部(イラン、エジプト、トルコ)　部長　瞿秋白

ソ支國交開始前は「コミンテルン」は支那赤化、中國共產黨との聯絡機關として派遣員制度を採用して祕密に派遣してゐた。その國交開始後は、在上海ソヴイエート總領事館內に極東赤化機關が設けられ、多くの「コミンテルン員」が政治局指導下に館員となつて入り込み活躍してゐた

一九二七年ソ支國交斷絕後、上海領事館引上げによつてその立場上の便宜を失つたが、同年五月二十日漢口においてプロインターンの汎太平洋勞働組合第一回、創立大會が開かれた結果上海に常設書記局が開かれることになり、アメリカ人共產黨員ブラウダーが書記となつたので、「コミンテルン」は直ちに彼ブラウダーを利用し、一九二九年遂に極東局を上海に設け、その足

場をかためることゝなつた。書記ブラウダーがモスコーに歸るに及んで後任にヌーランが任命され、一九三〇年來上海にあつて極東局書記兼汎太平洋勞働組合書記局書記として活動した。。ところが一九三一年六月十五日共同租界工務局警察の手によつて動かぬ證據を握られて遂に逮捕せられた。

彼ヌーランの自白によつて極東局の全貌が明かとなつたが、さすがに大規模なもので、極東局は單に支那のみでなく、日本、朝鮮、臺灣、印度支那、ヒリツピン、マレー群島印度等極東一帶の赤化にたづさはつてゐたもので、祕密聯絡員の往復の聯絡によるほか、上海郵便局に私書函を設け、或は會社名儀のアドレスによつて暗號電報を交換し、或は短波無電を利用して、「コミンテルン」本部と直接聯絡を行つてゐたものである。

又、上海にある極東局の他に天津に分局、ハルビンに全露共產黨滿洲省委員會、ハバロフスクには極東宣傳部、ウラヂオには全ソ聯邦共產黨極東地方委員會中國部があつて、いづれも聯絡機關の役を果してゐた。

日・ソ基本條約の反古化　一九三五年八月の「コミンテルン」第七回大會に於いて、日本共產

黨員、岡野、田中、西川、或はドイツ代表ピーク、イタリー代表エルコリ、ソ聯邦代表マヌイルスキー等が、口を揃へて日本を中傷非議したことに對して、我が政府當局は、一九二五年締結された日ソ基本條約第五條――「締約國は互ひに平和及び友好の關係を維持すること、自國の法權内において自由に自國の生活を律する當然なる國の權利を充分に尊重すること、公然又は陰密の何等かの行爲にして苟くも日本國又たソヴイエート社會主義共和國聯邦の領域の何れかの部分における秩序及び安寧を危殆ならしむることあるべきものはこれを爲さず、且つ締約國のため何等かの政府の任務にある一切の人又締約國より何等かの財的援助を受くる一切の團體をして右の行爲を爲さしめざることの希望及び意嚮を嚴肅に確認す」――をたてに、當時の駐ソ大田大使を通じて左の如き警告をソ聯邦政府に發した。

一、「コミンテルン」第七回大會において日本代表が日本赤工作に關する所見を述べ、又大會決議に於て日本に關聯し不穩な個所が存したに拘らず、ソヴイエート聯邦政府が何等取締を講ぜず却つて新聞紙上に公表したのは、帝國政府の深く遺憾とするところである。

二、事實上ソイヴエート聯邦政府と密接な關聯をもつ「コミンテルン」が日本國内における共

產主義運動を指導、赤化指令を出すが如きは、日ソ兩國間の基本條約第五條赤化宣傳禁止條項に明白に違反する。ソヴイエート聯邦政府の猛省を促さゞるを得ない。

この抗議に對してストモニヤコフ外務人民委員代理は大田大使に次のやうな意味の回答を寄せた。

「ソ聯邦政府は日本政府の警告を極めて意外とするところである。ソ聯邦政府は日本その他の諸國に對し「コミンテルン」の行動を取締るべき義務を有せず、且つ外國の亡命革命者に對する庇護を拒絶すべき理由なく、然も日本政府は諸外國における日本攻擊の言說について何等の抗議をなさざるに、ソ聯邦における場合のみ警告するはその眞意を諒解し難い。なほ滿洲國において白系ロシア人が反ソ行動を行ひつゝあり、滿洲國新聞紙も公然反ソ記事を記載しつゝあるなど事實は却つて友好關係を阻害するものである。云々」

「ソ聯邦以外の外國に於ける集會にて日本攻擊がなされたとするも、それは今回の如き極端なものではない。且つ滿洲國内における反ソ工作は、滿洲國が儼然たる獨立國たる以上、日本政府の關知せざるところであるが、今日までそのことは全然耳にしたることなし。云々」

日本側大田大使も重ねて應酬したが、結局、ソ聯邦政府はアメリカに對してなしたやうに「コミンテルン」との關係は皆無であるからその責任は無いといふ主張一點張りの常套手段でつつぱねた。日・ソ關係も無拙い溝渠が生じたわけである。

對日共産運動の指導　日・ソ關係を危殆に導くものは「コミンテルン」の赤化觸手であるが、その共産主義宣傳の巧妙さは、過去幾度の日本官憲の峻烈な檢擧によつて逮捕された日本共産黨員の自供によつて大略想像出來るであらうと思ふ。

日本人の共産教育養成に關しては、種々な方法が行はれてゐるが、例へば北海漁地乃至はウラヂオ等に於いて簡單に教育する以外、赤化可能の日本人をモスコーに招き、共産主義學校（クートヴェー）に入學させ、共産主義の理論及び實習運動の戰術を敎へ、適時にこれを歸國させて、直接運動に參畫させてゐる等その計畫は緻密周到を極めたものである。

對日共産運動指導のため一九二七年七月十五日「コミンテルン」執行委員會幹部會は日本に對するテーゼを採擇し、日本共産黨の行動方針を說明、當面の政綱として次のやうな十三ケ條を授けた。

一、帝國主義的戰爭の危險防止。
二、支那革命に對する不干涉主義。
三、ソヴイエート聯邦擁護。
四、植民地の完全なる獨立。
五、議會の解體。
六、〇〇制廢止。
七、十八歲以上男女の普通選擧採用。
八、集會、結社、團結、言論、出版の自由。
九、八時間勞働制實施。
十、失業保險。
十一、勞働者の利益に反して作成された法制廢止。
十二、〇〇、地主、國家及び社寺の土地沒收。
十三、累進的所得稅の樹立。

猶又、一九二八年二月八日「コミンテルン」執行委員會幹部會において、クラセニニコフは日本に關してこのやうに言つてゐる。

「從來日本の運動は秘密的運動であつたが、今や左翼運動は公然法律で認められることゝなり、少數ながら代表を議會に送ることが出來たのは喜ぶべきことである。左翼諸黨と緊密な連絡を保ち、將來これ等諸黨をして吾人の步調を合はせ緊密なる結合をたらしめねばならぬ、云々」

更に、一九二八年五月四日「コミンテルン」執行委員會政治部は「日本共產黨當面の任務」なる決議として次の綱領を採擇し揭示した。

一、日本共產黨はブルジョアジーの手先たる社會民主主義者を糾彈。

二、政府の彈壓に抵抗して黨を强固ならしむるため非合法機關を組織擴張する。

三、黨は政府によつて解散された勞農黨、評議會、青年同盟等、左翼諸團體の再建に努むること。

四、農民運動と步調を一にす。

五、政府に反抗して支那革命並びにソヴイエート聯邦を擁護する。

以上述べたやうに、日本の國體及び政治機構を破壞せんとする危險な指令は、悉くソ聯邦內に在る「コミンテルン」から發せられたのである。

滿洲赤化の足跡　滿洲に於ける共產主義赤化運動は一九一七年頃から始められてゐた。それには一方、間島地方を中心として活躍してゐた鮮人共產主義者の力も加はつて、各地に赤化の蠢動がなされてゐたが、當時軍閥張作霖政權とソヴイエート聯邦政府との間に暗影が漲つてゐて、爲めに張政權は猛烈な赤化彈壓を加へたものである。例へば張のソヴイエート大使館への無暴な搜索大手入れなども、滿洲赤化を虞れたゝめの反擊抗爭であつた。

一九二八年十一月、中國共產黨は中央直轄及び中國共產青年黨の兩「滿洲省委員會」を組織したが、後に「コミンテルン」はこれに各鮮人共產團體を加入すべきことを指令し、玆に漢、滿、鮮人の共產黨員を抱擁する「中國共產黨滿洲省委員會」なるものが出現、その勢威は破竹の勢ひのごとく擴大して行つた。

そして、「中國共產黨滿洲省委員會」の下に、北、東、南滿三特委、二市委、十五縣委、十七特別支部を設け、更に區、縣、市軍委を統轄する獨立軍事委員會、滿洲省互濟會、全總滿洲辦事處

反帝同盟、社會科學聯盟、農民協會等々を組織し、或は計畫し、しかもそれを着々と實行運動に移したのであつた。即ち、過日の間島地方に於ける鮮人の武裝遊擊、ハルビン地方に於ける反帝運動、撫順に於ける勞働運動、磐石に於ける農民等の背後には、この「中國共產黨滿洲省委員會」の魔手が動いてゐるのであつた。

滿洲事變の勃發と滿洲國の建設、日滿議定書に基く日滿兩國官憲による肅清工作等が、有繋の「コミンテルン」の赤化工作に根本的な大打擊を與へたことはいふまでもない。しかし滿洲國政府は一面に外交的手段にも訴へて、ソ聯政府に對し滿洲に於ける共產黨及び職業同盟機關の解消、東支鐵道從業員の策動禁止等を要求したゝめ、ソ聯も表面すべての政治機構を閉鎖したかのやうになつた。が、その實極めて陰險なる地下工作を行ひ、三省政治局なるものを設置し、これを、「コミンテルン」より發する總ゆる命令の受領處理機關とした。同局は北滿縣委員會、ソ聯邦領事館檢査委員會極東局、通商代表部、ゲ・ペ・ウ、北滿理事會、北鐵監理局、勞働組合及び鐵道職業組合の各代表者一名を幹部として、スターリンの駐滿代表者ア・ゲ・ガルトマンがその指導の任に當つたが、その中心をなすものは「北滿縣委員會」であつた。

「中國共產黨滿洲省委」は東部滿洲にその根據をおいてゐたが、各縣委員會、區、支部等の細胞組織を設け、「反滿」「抗日」の煽動に努めて、不平分子や舊軍閥の殘黨を糾合し、それをさらに共產主義思想に結びつけて宣傳を行つてゐたのであるが、掩護機關として武裝遊擊隊をもつてゐた。

一時は、第一軍獨立師司令楊靖宇、參謀長李希淵、第一團長袁德勝、第二團長王仁齋、第三團長韓浩、第二軍南政府長團振泰、司令朱鎭など共產黨員の麾下にその數約三十萬を擁し、人民革命政府の名のもとに、滿洲ソヴイエート區を樹立結成してゐたほどであつた。

しかし、相次ぐ匪賊の討伐と、滿洲國內の治安警備の浸潤によつて、今日では漸くその匪賊の數もわづか二萬內外を算へる程にすぎなくなつた。それとゝもに、滿洲に於ける華々しかつた共產主義運動も、全然潛行的工作となつて了つた。ばかりではなく、從來彼等と聯絡し、彼等に資金及び武器を供給してゐたソ聯「コミンテルン」中國共產黨との指導援助も極めて困難になり、非常に勢威を弱められて了つたのである。

このやうに「コミンテルン」の赤色魔手は極東の平和を亂すばかりでなく、全世界を憤火爆發

させんとする危機へ、歩一歩と追ひ込んで行きつゝあるのである。われ等は斯かる危險から遁れて眞の平和の榮光に浴さんことを心から祈るものである。

（註、支那に於ける赤化事情は別項に記す）

反ソ共産撲滅同盟

世界の赤化宣言　一九三五年夏モスコーに於て「コミンテルン」第七回大會が開催されたが、同大會までは規約による二年に一回の大會が、鳴かず飛ばずで丸七年間も棄ておかれた上に、「コミンテルン」の生みの親でゐるソヴイエート聯邦では、スターリンの提唱する一國社會主義建設が始められ、對外にも「平和。協調外交」が叫ばれて來たので、世界赤化の策源本部である「コミンテルン」死滅論などが傳へられるほどであつた。

ところが豫想に反して、第七回大會の決議は、從前より一歩前進した確然たる挑戰的なものであつた。

「ソ聯邦に於ける一國社會主義の建設實現し、國力强大化した結果、世界民衆の意識及び階級間

の力の關係が社會主義に有利に變化し、世界はプロレタリア××發展の新時代に入つた。よつて全力を擧げてソ聯を援助强化し、その敵と戰ふは黨員その他反ファッショ民衆の任務である」と、本來の目的達成のため從來の行掛りを捨て、社會民主黨その他と提携團結して、所謂「人民戰線」統一の實行に着手して行つたのである。

防共陣營の蹶起　これに對して最先に立ち向つたのがナチス。ドイツである。

元來ナチスは共産主義をユダヤ人の思想として不倶戴天の仇敵と目することをもつて信條としてゐる。一九三三年ヒットラーが天下を取るや、第一に手をつけたのは共産主義者の徹底的彈壓であつた。從つて共産主義を國是とするソ聯邦とは最初から相容れる筈がなかつた。

「――國際性はボルシエヴイズムの根本原則であり、ボルシエヴイズムは全世界に根を張り、究極において現存社會を破壞しようと企圖してゐる――ナチズムはいかなる地點いかなる事情のもとにおいてもボルシエヴイズムの進出を排擊し粉碎する。ナチズムの目標はマルクス主義的混沌でもなく、ブルジョア的自由放任でもない――云々」

ヒットラーはナチスの黨大會で、このやうにソ聯を反擊して歐洲諸國に警告を與へたが、俄然

反ソ戰線結成の大旗を揭げて、先づ同樣フアッショ國のイタリーと握手をし、オーストリア、ハンガリー、その他のヨーロッパ小諸國と緊密な關係を結び、猶、さらに極東に於ける帝國わが日本とも過般宣傳された防共協定を締結した。

かくて、反ソ樸滅同盟の陣營强化は未だ不完全ながら、その外廓的容貌を逞しくして行きつゝあるのである。

スペイン政局の左右對立　一九三六年に入つて、スペインの政局は、實にめまぐるしい展開を始めた。二月十六日の總選擧は左翼人民戰線派の大勝をもたらした。これを契機として、スペイン全土に工業勞働者のストライキ、農民の暴動が相次いで起つた。四月七日にはアルカラ・サモラが大統領の地位から逐ひ出され、出獄したばかりのアサニアがそれに代つて大統領となつた。そしてキロガ内閣が出現し、スペイン政權は完全に人民戰線の手に歸したのである。

左翼とは共和左黨（黨首アサニア）、共和黨（黨首バリオス）＝カタロニア共和黨（エスケラ）。社會黨（保守派指導者プリエト、急進派指導者カバレロ）共產黨等の人民戰線であり、勿論、ソヴイエート・ロシヤ聯邦の息がかゝつてゐる。

これに對抗する右翼は、急進黨（黨首レルクス）。セダ黨（スペイン自治右翼聯合黨首――ヒルロブレス）。スペイン鬪士團（黨首ブリモ・デ・リヴエラ）。農業黨、カタロニア右黨、王黨等からなつて、獨・伊ファシズムの權力に倣つて立たうとしてゐるのである。

赤色の分散地圖

スペイン・ソヴイエート化か？　マルクシストの指導者フランシスコ・ラルゴ・カバレロは極左黨を率ゐて、スペイン・ソヴイエート政府の樹立を希望望求してゐるほどで、ソ聯の赤化に全く傾ひて了つてゐる。

カバレロの機關紙「クラリダート」の主筆アラキスタンの說明は、その立場をよく鮮明にしてゐるので耳を傾けてみよう。

「我々社會主義者は、我々の目的を貫徹するについて、いまや平和的手段になんらの期待をも繫いでゐない。共和政治の最初の二年間、我々は共和黨左翼と提携して、ともかくも平和に事を行はんと試みた。しかし、その努力のすべては右翼獨裁下の次の二年間に悉く奪ひ去らた。我々

は結局すべての制度が改革さるべきことを要求する。しかし、今のところ左翼共和黨が選擧協定によつて我々に公約になした公約を着々實行しつゝあることに滿足しなければならない――外部から我々は政府を動かさねばならない。實際左翼共和黨はプチブルであり、いまなほ資本主義を依賴してゐる。我々はこれと異る。――我々スペイン社會黨は共產黨よりずつと進歩してをり、遙かにコムンステイツクである。――我らの指導者フランシスコ・カバレには資本主義を××し、プロレタリア××を樹立するために、社會主義者、コムニスト及びサンヂカリストをプロレタリアの旗の下に結合する希望を棄てゝゐない。――云々」

彼の見解によれば、コムニストは未だ議會闘爭を固執してゐるが、サンヂカリストは「我々が戰ひを開始するときは我々と行動を共にする」として、大いに彼等を買つてゐる。このことは叛亂勃發迄のゼネラル・ストライキの續發について、ひとつの說明を與へてゐるやうである。

赤色戰術に踊るスペイン　すでに六月初旬から四萬の建築勞働者はストライキを續行してゐた六月下旬には二萬の木工勞働者及び裁縫勞働者が罷業に入り、月末にはバルセロナの海員、一萬

近くのリオ・テイント鑛山勞働者等がストライキを開始し、マドリツドの鐵道從業員は七月四日からストライキを開始した。勞働大臣ファン・ルーイは調停に乘り出し、雇傭主および請負業者に警告を發したりした。ルーイの政策は相當資本家側には强壓的であつて、七月に入つて、彼はエレヴエエター・ボーイに關する勞働仲裁々判所の判決を拒絕した傭主を投獄し、遂に彼等を讓歩せしめ、さらに爭議解決のために請負業者をも投獄をもつて脅かさゞるをえなかつた。何しろ騷擾のためマドリツド市の主要水道管が破壞されたまゝになつてゐるので、この上建築勞働者のストライキが續けば、マドリツド市民が干乾になつて了ふほどだつた。

七月七日になつて社會主義建築勞働組合と傭主側はルーイの調停條件を承諾したが、無政府主義勞働組合はそれを拒絕した。彼等の主義を押通すには、××行動しかないといふのだつた。だから彼等は社會主義勞働者の就業を妨害し、マドリツド市の水道管の半ばを破壞しつくした。

この間にも議會に於ける左右兩翼の闘爭は續けられてゐた。六月末スペイン・キリスト教徒の代表、セダ黨領袖ヒル・ロブレスは人民戰線政府の失政を猛烈に攻擊した。彼の提出したバランスミートルによれば、

「この四ケ月間の間に政治上の騒擾によつて二六九名が死亡し、一五〇〇名が重傷を負つた。一六〇の教會が燒かれ、二五〇が破壞された。四四の新聞社が破壞され或は襲擊をうけ、社會主義者共產黨、サンヂカリストの指命によつて三四〇〇のストライキが行はれた」

といふ。

これは悉く、ソヴイエート聯邦の「コミンテルン」派遣員の赤化指導の戰術激化に因るものに他ならないのであつた。

政局の危機は左右のテロへ　七月一日にはロブレスの一黨で、さきの反動內閣リヴエラ政府の大藏大臣を務めたホセ・カルヴオ・ソテルロが、政府は何故に農民の騒擾を鎭壓しないかと詰問したことから、左右兩翼の議員間に大亂鬪が行はれ、議長パリオスは右翼代議士全部に退場を命じたことなどもあつた。七月上旬のスペインの政局はそれこそ「一觸卽發」の危機にあつたのだつまり人民戰線、殊にカバレロ指導下の社會黨及びサンヂカリストの舊教徒、スペイン鬪士團、(フランヘ・イスパニヨール)、王黨、とりわけ軍閥への執拗な挑戰が、これら右翼に對して完全な敗退か、それとも敢然蹶起かの二者擇一を强要しつゝあつたのである。ストライキ、教會襲擊

等もそれであるが、政府はまた、教育機關から舊教僧侶を驅逐するために全力を盡しつゝあつた例へば既に六月末キロガ政府は五萬の教師を僧侶に代置するため四百萬ペセタ（一ペセタ約四〇錢）を支出し、さちに七月初めには四千ペセタを新に支出することにした。一方には反政府のスペイン軍隊の將校を續々免職し、恩給權を剝奪した。またマドリツドの警察は、フアツシストの家宅搜索を行ひ武器を押收した。なかでも右翼を刺戟したのは、市中における社會黨、サンヂカリストのフアツシスト襲擊であつた。

血に狂ひ咲く南國魂　このやうに將に「一觸卽發」の情勢にあつたスペイン國內の危機は、右翼の大立者カルヴオ・ソテルロの暗殺によつてその口火を點けられた。

彼は一九三一年の革命にはいち早くフランスに逃げ込んだ。しかし、一九三三年にはガリシアの王黨代表として議會に選出され、レルクス內閣に入つた。一九三六年の選擧にはスペイン全土を通じて左翼が勝利を得たにも拘らず、彼は引續き議員の席を保つてゐた。議會における彼の活動は堂々たるものがあつた。

七月十二日夜十時、突擊警察隊の中尉ホセ・カステイロなる青年が何者かのために射殺された

左翼の推定ではフアツシストが彼を殺したといふ。數ケ月前に小プリモ・デ・リヴエラの從兄のアンドレス・サインツ・ヘレディアが暗殺されたが、フアツシストはその下手人こそカステイロ中尉であるとして彼をつけ狙つてゐたものである。そして、復讐の後には複讐がつゞく、血に狂ふ南國魂は燃えるのだ。

七月十三日午前三時、カルヴオ・ソテルロの邸宅は突擊警察隊に包圍され、彼はカステイロ暗殺の嫌疑ありとして、その場から連行された。三時四五分、一臺の警察自動車がマドリツド東部共同墓地に現はれて一個の死骸を墓地管理人に引渡した。管理人の申立てによると、死體は明かに小銃と双物による傷を受けてゐたといふことで、まもなくそれはソテルロであることが判明した。犯人としてU・M・A（反フアツシスト軍事同盟）の加盟員が數名逮捕された。

俄然、これが直接原因の導火線となつたのである。

スペイン革命軍の蜂起　七月十八日未明ジブラルタルの彼方テツアンの町に、モロツコ駐屯軍の一指揮官エリテラ中佐が、この歴史的な大動亂の革命蜂起の火蓋を切つた。

同時にかねて氣脈通じてあつた各革命軍は、スペイン本土の各重要都市に一齊に起つた。

次々にこれに呼應した各地兵營に波及し、僅々二日間に全都市の半數以上が革命軍の手に歸し一擧にしてフアツショ獨裁なるかと思はせたが、正規軍の一部と市民義勇軍の頑強なる抵抗に依り、一兩日にして革命軍はマドリツド、バルセロナ、ヴアレンシア等の重要都市を放棄した。

爾來、叛亂は長期戰の形をとり、北方ブルゴスを中心とする北軍司令官エミリオ・モラ將軍の部隊と、南方セヴイラを根據地とする南軍司令官フランシスコ・フランコ將軍の部隊とが、各地の政府軍と交戰しつゝスペインの首都マドリツドへと攻め寄せて行つた。

スペイン兩軍の構成　まづフアツショ派陣營の革命軍の主要人物を瞥見してみやう。その第一は何といつてもフランシス・フランコ將軍に指を屈せねばならまい。四十五六の血氣男盛りで將軍となつてゐる彼は相當の人物であるが、人民政府に睨まれて、左遷も左遷、日本でいへば南洋の果てへ追はれたやうなカナリア群島の司令官として鬱積の日を送つてゐたが、遂に蜂起軍のリーダーとなつたのである。

フランコ將軍と並ぶエミリオ・モラ將軍は曾てプリモ・デ・リヴエラ獨裁下に於ける警察とスパイ制度の組織者兼頭目でゐつた。

ヒル・ロブレスはカトリック教人民聯盟の頭目で、サマランンの地主で資本關係と因緣深く、革命軍の軍資金その他の準備はこのロブレスを通じて調達されてゐる。彼はローマネス・マルクカンポ等の巨大な資本家と提携し、さらに一方に於てヴアチカン、及びムツソリーニと關係をもつとゝもに、イギリスの實質的植民地たるポルトガルの統治を通じてイギリスの利益とも結んでゐる大立者である。

この他クウエイボ　デル・ラノ、民間側ではファン・マルク、フランシスコ・カンポ等が巨頭で、このフアツショ派に屬する人々は、總人口二千四百萬中三百萬乃至四百萬であらう。この中には僧侶、托鉢僧及び尼僧たちの九五%を含んでゐるといはれてゐるから、ファツシストたる地位において現實に闘爭してゐる分子は勢々五萬人位で、あらゆる國籍をもつた傭兵の外人部隊ムーア人、バーバー人、リフイアン人よりなるモロツコ軍隊及びスペイン正規軍の高級將校の大部分である。民間側の臨時義勇軍にはスペイン社會の上層階級たる小壯地主があり、またテロ的ストライキ破りのギヤングに組織された「シンジカトス・ブランコス」の名が通つてゐる浮浪人の一隊がある。

次に人民戰線の構成分子は誰々か。第一にマルチネス・バリオ派の共和主義者――小店主であり健實な都鄙の中產階級を代表してゐる。その數は餘り多數ではない、人民戰線の四分の一の代表にすぎぬ。

第二に、アサニヤ派の共和主義者がある。人數或ひは寧ろ組織よりいへば、この派はほとんど認められぬともいへるが、アサニヤの勢力は右翼社會主義者の間においては大きい。アサニヤはスペインに於ける最左翼共和主義者であり、同時に尤も妥協性をもたないブルジョアである。

第三に、カタロニヤ・エスケルラ派であるカタロニヤに於ける支配的政黨。彼等はカタロニヤ人の四分の一乃至三分の一に及ぶ支持を受け、その主なる勢力は田園人口の大部分を構成する小農から成る。以上三者が共和主義勢力の主なるもので、彼等は六百萬の人口を指導し、十萬人の軍事勢力を擁してゐる。その原動力は航空隊と警察隊である。

スペインの人民戰線が主として勞働者の支持に俟つてゐることは說明するまでもあるまい。この急進的な勞働者の數は恐らく千五百萬に上るだらう。その中心勢力は、

一、勞働總同盟――組合員は百萬人位だがその二倍にも上る都鄙の勞働者を支配することが出

來る。彼等の多くはフランシスコ・ラルゴー・カヴアレロを指導者とし、少數の最左翼派でボリシエヴイズムに傾きつゝあると思はれる。

二、勞働全國同盟――前者に對立する程の大きな勞働組合。北部でカタロニヤに於て約五十萬乃至百萬を、南部アンダルシアで若干を支配してゐる。指導精神は無政府的サンヂカリズムで、イベリカ、政府主義者同盟が支配權をもつてゐる。

三、共產黨――黨員五萬、或は十萬といはれてゐるが、アサニアを支持してゐるのはこの黨である。

四、P・O・U・M――カタロニヤには社會主義政黨及び共產黨は勢力をもたぬ。最も有力なる勞働者の政黨は、アンドレス・ニンとホワキン・マウリニの指導するP・O・U・Mである。この黨は數年前トロツキストと共產黨右翼との合同によつて成立したのだが、今や却々血氣熾んな戰鬪分子の主力となつてゐる。

內亂時代から次へ

政府軍の非常總動員　革命軍の豫定では三日にしてマドリツドを陷落せしめる筈であつたが、首都及びバルセロナの反亂は容易に鎭定され、十二月末に至るもマドリツドは陷落しない。北部戰線における政府軍の敗北は、彈藥缺乏によつたもので、しかもビルバオ、オビエドの如き鑛業地帶は尙政府軍の下にある。

革命軍側に對して獨・伊・葡を通じての國外武器資本（シユネエデル・クルーゾオ、ヴイツカーズ・アームストロング。クルツプ・チツセン）の供給する武器彈藥、機械軍隊は、中世の文化を誇る寺院も博物館も容赦なく破壞し燒き盡し、同胞國民の生命の多くを犧牲にした。

人民戰線政府は勤勞國民大衆に呼びかけ、壯年の男子はいふに及ばず、女子、少年までが戰線に立つて銃を執る非常總動員が廣汎に成立し、武器缺之から原始的戰鬪を行つてゐるが、カタルーニヤ州の飛行機、新兵器の製造能力の進展と共に、漸く政府軍にも武器が配給され始めた。フランス政府の不干涉政策は政府側に對してのみ甚だ嚴重に行はれた爲に、フランス人民戰線、ソ

聯邦の援助は食糧が義捐金の域を越えず、武器供給はメキシコ人民戰線政府以外には行はれてゐない。十一月まで政府軍がマドリッドを中心にして頽勢にあつたとすれば、原因は武器不足にある。

かつがれた喧嘩御輿　スペイン内亂勃發以來、獨・伊・葡等のファッショ國家が、革命軍側に精神的、物質的の援助を送つてゐるに對し、佛・ソ等の人民戰線國家も負けず劣らず政府軍を後援してゐる。

スペイン内亂だけについて、未だに人は人民戰線政府軍と、ファシスト革命軍といふ風に考へてゐるのだらうが、スペイン政府は既にスペイン共産黨が完全にヘゲセニーを握つてゐるソヴィエート政府たることをカバリエロ首相を通じて宣言してゐるのである。そしてそのための政策は既に實行に着手されてゐるのであつて、イタリー系資本の工場が强行的に閉鎖されたなどはその一例である。

十一月二十一日、スペイン政府は次のやうな聲明を發して、その確固たる覺悟の瞻を示してゐる。

「イタリー及びドイツ兩國政府はスペインをその植民地に化すべく計畫し、フランコ將軍なる共犯者を見出したのである。イタリー政府はフランコ將軍によつて「エチオピア帝國」同樣「バタアリツタ群島帝國」を加へんと希望し、ドイツ政府は戰爭計畫實施のため、不足の原料品をスペインに求めやうとしてゐるのであるが、スペイン共和國は獨自の勝利を得るやその勢力を百層倍增加する決意である。更にメキシコ、ソヴイエートの援助をも期待し得るに至つた」

このやうに、最早、スペインの内亂は、只單に内亂だけでなしに、左翼國家ブロックと、右翼國家ブロックとにかつぎあげられた喧嘩御輿となつてゐるのである。

猛襲攻防の市街戰　マドリッド入城を目指す革命軍攻擊隊は十一月初旬、ヘタフェ及びカラバンチエル區で政府軍の强硬な反擊を受け一時後退した。革命軍の作戰はマドリッド防衛線の最弱點を襲擊するといふにあり。次いで、市の西部カナ・デ・カンボ及びその附近に主力攻擊陣を移し、野砲隊が續け樣に百餘の彈丸を浴びせかけるのと、に、挺進隊は獰猛果敢なムーア土人部隊を先頭に、隨所に肉彈戰を演して、政府軍の防衛陣を突破し、セゴヴイア橋の北方から進軍した部隊は、首都北方の大學通り、北停車場、模範刑務所サンタ・クリスチナ、養老院、農業研究

所等の要點を占據し、南部隊はセゴヴア、トレド兩橋間附近、デリシアス驛及びヴアレンシア、アランフエス、サラゴツサ方面への玄關口たる南停車場を占據した。

この總攻擊に對して政府軍の防衛も又必死を極め、敵の抵抗の弱い戰線を狙つて活動するとともに、果然ゲリラ戰法的市街戰に轉じ、偶々侵入突擊して來る革命軍兵士の頭上から、婦女子までが手傳つてガソリン壜や煮え油を投げつけるなど奇襲一致の擊退戰を演じた。

革命軍の空軍部隊は首都に猛烈な爆擊を加へたが、その結果南北兩停車場は遂に炎上し、マンサナタス河上のセゴヴィア橋も破壞され、中央郵便局、その他の建築物はその後時日の經過とゝもに爆破されて行つた。

「政府軍は十一月十八日以來の戰鬪で病院カサ・デ・ヴエラスケス、哲學科農科建物を含む大學街の一部を叛軍の手から奪還することに成功した。この戰鬪で政府軍は叛軍戰車二臺を鹵獲した。政府軍は軍需品の補給、砲兵隊の來援を得て勇氣百倍反擊に當つてゐる。叛軍飛行隊はマドリツド市を不法爆擊してゐるが、若しも爆擊がさらに數日續くとしたならば、山緒あるマドリツド全市の荒廢は遂に免れないであらう」

防衛司令部はマドリツドの戰況について、このやうに發表してゐる。

スペイン對立四政權　スペイン國情は混沌としてその歸趨するところを知らないが、目下同國內には左右四つの政權が對立し互ひに抗爭しあつてゐる。

一、ブルゴスン權――昨夏スペイン革命勃發後間もなく革命軍がマドリツドの人民戰線內閣に對抗して、ブルゴスに作つた右翼政權である。フランコ將軍は十月三日ビルゴス政府の首班となり、獨・伊兩國政府がこれを承認した。所謂フランコ政府とブルゴス府權とは、同一のものである。

二、バクス政權――バクス地方首府ビルバオにある地方赤色政權で、人民戰線側の有力な構成分子で、海陸からの革命軍の猛擊をよく喰ひ止めてゐる。

三、ヴアレンシア政府――マドリツドが革命軍の重圍に陷ると共に、アサニ大統領、カヴアレロ首相等政府首腦部は軍事委員を殘してマドリツドを撤退、ヴアレンシアに臨時政府を開いたもので、ブルゴス政權と相對立してゐる。

四、カタロニア政權――スペイン東南のカタロニア自治州バルセロナにあり、一九三四年マド

リッド政府と別れてから、急速に左翼化した。現にソ聯邦のスペイン政府救援軍並に軍需品はバルセロナに到着して、こゝからマドリッドに送られてゐるといふことである。

血迷つた政府軍艦　スペイン内亂に對して革命フアッショ國際義勇軍を續々と送る獨・伊等に對する反感は、血の氣の多いスペイン人民戰線派の憤激するところとなり、スペイン軍艦は遂にドイツ商船ペロス號を拿捕し、その積荷及び船客一名を拘禁して了つた。汽船のみは十二月二十九日釋放したが、その積荷がスペイン政府軍に取つて不幸を齎すものであつたか、どうかは兎も角、これは將に國際的に由々しき問題を惹起するやと思はれた。

復讐のスペイン商船撃沈　俄然、横紙破りのドイツは、パロス號拿捕の報復手段としてドイツはスペイン派遣艦隊旗艦ケーニヒスベルグ號以下三隻を急遽スペイン領海内において活躍させる擧に出でた。即ち一九三七年一月一日、スペイン政府側の商船アラゴラ一隻を拿捕、續いて汽船ソトン號に停船命令を發し、同船がこれにぜ應ず逃走を企てるや、その周圍に發砲威嚇して、遂にスペイン商船ソトン號をサントナ港沖に坐礁せしめた。

次いで、二日正午スペイン北沖合において、ドイツ巡洋艦ケーンヒスベルグは號、スペイン商

船マルタ・フンクエラ號(六〇七トン)をも拿捕した。

獨・西最後通牒即發か　ドイツ政府は五日、ヴアレンシアにあるスペイン人民政府に對し、さきにドイツが拿捕したスペイン船船マルタ・フンケラ並にアラゴンの二隻の釋放と引換へにスペイン政府側の浚收したパロス號の積荷の返還と監禁中の乘客の釋放の通牒を發した。

「目下スペイン近海にあるドイツ派遣艦隊司令官は、五日午前ヴアレンシア政府に對し一月八日午前八時までにパスロ號の積荷及び船客一名を釋放せざるに於いては、ドイツ側に抑留中のスペイン汽船アラゴン號、及びマルタ・フンクエラ號とその積荷を適當に處分し、ドイツ政府の正式に承認せるフランコ政府との貸借關係の清算に充當する旨、及び今後ドイツ商船に對する海賊行爲が繰返される場合は、更に有効適切なる手段に出ずべき旨の最後通牒を送つた」

と、ドイツ政府は、同時にこのやうな公式コムミニケを發表した。

スペイン政府側は

「パロス號は戰時禁制品たる軍需品千五百トンを積載してをり、しかもスペイン領海内において拿捕されたものだから釋放の如きは全然問題外である」

といふ强硬意見に傾いて反撥的聲明をした。

これに驚いたのは英。佛その他の諸國であつた。フランス政府は、イギリス政府と協力して、スペイン政府に對して、

「パロス號拿捕、積荷沒收はドイツ政府に對しスペイン內亂居中調停を不可能なりとする口實を與へ、事態を一層惡化せしむる虞れがあるから、至急釋放せられたし」

と、極力平和的解決法を斡旋努めた。

かうして、スペイン內亂が長びくとゝもに、中立國船舶に對する不發砲擊拿捕事件が次々と頻發する有樣となつた。

英國商船も又、ブルゴス政府（フランコ政府）の所屬軍艦から砲擊を受けたいといはれ、イギリス驅逐艦數隻は直ちにスペイン領海カデス港に急行した。

危い哉！ スペイン內亂は陸から海へ、さらに、國際的戰鬪への移行をさへ顯現せんとしてゐる。

國際政局の動搖向背

目潰しを喰つたイギリス 舊スペインはイギリスとイタリー、フランス三國の絲に操られ、何れかといへばイギリスの自由になつてゐた。「マドリッドはスペインのヂブラルターである」と、アルフォンゾ十三世時代に謂はれた。ポルトガル、スペインを掌握することは地中海政策上必要である。從つてイタリーのスペイン進出を妨げるが、人民戰線政府出現によつて、對スペイン投下資本及び、チブラルターが赤色政權によつて脅かされるのを防ぐ意味で、イギリスは革命軍には同情を有してゐる。

又、內亂によつて重工業は大いに儲け、兩軍の妥協を策し、これによつて人民戰線及びイタリーを掣肘すること、これが今次の叛亂に對するイギリスの方針であると思はれる。故にフランスがスペインを援助して革命軍を鎭壓させることを防ぐために、不干涉協定によつて專らフランスソ聯邦を牽制する。その間に武器を兩軍に賣つて儲ける——政府軍の手にあるスペインの軍器工場プラセンシア、バルセロナ造船所、飛行機製作所は殆んどイギリスのヴイツカースの子會社で

ある――といふに至つて蟲のいゝ考へのイギリスである。

ところが、前に述べたやうな革命軍所屬の軍艦が、英汽船エトリツグ號（一九四三トン）同じくブラツクヒル號（二四九二トン）等を砲擊するやら、マドリツド空襲の革命軍空軍數臺が英國大使館にも十數發の燒夷彈を投下し、その內四彈は大使館に命中、大使館付武官及びその夫人を負傷させ、猶、英國領事代理ジョン・ミレー邸にも命中するなど飛ばつちりを蒙むる有樣である。

それは些細な問題として意に介さないまでも、最大の脅威は獨・伊のフアツショ・ブロツクのスペイン內亂の積極的干涉、義勇援軍の派遣問題である。これはゆるがせに出來ない。イタリーとドイツの進出は、スペインに於ける從來のイギリスの優位を奪はれる結果を招來しないとはいへないのである。

スペイン不干涉協定？　スペインの內亂の戰禍擴大を憂慮したフランスは、逸早く一九三六年七月三十日、スペイン內亂不干涉協定締結を提唱し、その後、佛・英・ソ聯邦獨・伊等の不干涉委員會がどうにか曲りなりにも武器、供給等を控へることを約束したが、對蹠的な側に立つ橫紙破りの獨・伊兩國は內密に革命軍に對して飛行機、大砲、機關銃、小銃、彈藥等を供給し、更に積極

的に多くの義勇軍を募つて、戰鬪に加擔させてゐる。

さうなると、表面上は兎も角、スペイン政府側を全幅的に支持してゐるソ聯邦、及びその思想的立場の類似からフランスも、勢ひ多數の義勇軍を密かに送り、義捐慰問の金品を積み出すといふ次第で、不干涉どころか、事實はスペイン動亂干涉は公々然たるものがあるのである。

外交辭令の空言　フランス政府は流石に時々刻々緊迫するスペイン內亂の波及をおそれて、續々と增加する義勇軍の派遣を禁止しなければならない必要を感じて來た。が、それだからといつて、獨・伊兩國の躍進的義勇軍增派をみては危惧しないわけにはゆかないのでイギリスを誘ふ一方に於て、外交的辭令の意味で、本年初頭の十四日、下院に對し義勇軍派遣禁止案を上程した。

一、スペイン向け義勇兵徵募並に派遣を禁止する全權を政府に賦與する。

一、全權委任期間は六ケ月とす。

一、政府は（イ）スペイン交戰團體の手先がフランス領土內においてスペインに向け乃至スペイン領モロツコに向け義勇兵を徵募し、（ロ）同交戰團體に參加を欲つする者がフランス領土を出發乃至通過し、（ハ）外國に在留するフランス人が同交戰團體に參加することを禁止するた

め必要と認める法律を制定公布することが出來る。

しかし、フランス首相は、この義勇軍禁止案が全院一致で可決された後に、フランス政府の平和擁護に對する決意を表明し次の如く述べた。

「フランス政府はフランス國家の主權に屬せぬ地域を含めて、統治下の一切の領土に亘り國際監視を受諾する用意がある。尤も義勇兵禁止案が友邦スペイン國の合法政權と叛徒とを同一視してゐるのは不滿だが歐洲平和を戰禍の脅威から救ふことが先決問題であるからスペイン向け義勇兵派遣を斷乎禁止する外はない。併しながら禁止案に關する國際協定が成立せぬ際には、フランス政府としても問題を新な觀點から見直さねばならない」

一萬人の伊國兵後援派遣　七月十七日のモロッコ叛亂の三日前にイタリーと革命軍間に連絡のあつたことは、既に明かな事實となつてゐるが、その後も武器彈藥類優秀な軍用航空機なども供給して、爲に戰禍は益々〳〵擴大繼續されて行つた。

ところが最近、一九三六年十二月二十二日に六千名、更に新年一月一日に四千名の義勇兵をイタリーが祕そかにカヂス港に送つたことが公にされ、事態は愈々重大視されるに至つた。

問題解決に新國際會議　イギリスのイーデン外相はスペインの事態が歐洲大戰再發の契機となることを防止するため、ヒツブス、ドラモンド兩大使を通じて、獨・伊兩國政府に對し、イギリス政成はこの際主なる關係諸國よりなる國際會議の即時開催を提唱する用意を有し、獨・伊兩國の贊同を得れば開催の準備についてはイギリス政府に於てイニシアチーヴをとる意見のあることを通達せしめた。

この會議は現在の不干涉委員會とは性質を異にし、不干涉委員會が會議に對し全權を有せざる各國駐英大使よりなり、その結果徒らに議論倒れとなり、肝腎の決議採擇に當つては本國政府の訓令を俟つため、會議の進行遲々たるものであるに對し、新會議は各國委員とも本國の訓令を俟たずして、即決し得る全權を有する代表者を以て組織する等である。

即ち英・佛兩國の名において、義勇軍派遣、スペイン兩政府をそれ〳〵支持援助してゐるドイツ、イタリー、ソ聯邦の三國に向つて次の趣旨の覺書を發送提示した。

「各國はスペインの政府、革命軍いづれに對しても各自國から義勇軍の派遣を禁止しかつ右義勇軍の自國通過を阻止せんとする規定――」

このスペインの各國義勇軍派遣禁止。不干渉案が果して獨・伊のファッショ・ブロック、ソ聯邦の共産イデオロギーを承服せしめ得るかどうか、將來、それが完き實行が可能かどうかといふことは大いに疑問と爲さなければならないであらう。

世界第二次大戰の鍵

スペインから獨伊・リの抗爭へ　世界の二强國たるソ聯邦、ドイツ、イタリーは遠慮會釋なく或は政府軍或は革命軍援助に乘り込んで行つたが、今ではいづれも益々物凄いスピードできりきり引廻されてゐる。獨・伊及びソ聯邦は今やいはゆる「義勇兵」の大部隊を派遣してをり、この義勇兵はそれ〴〵戰場において活躍してゐる。

まさにヨーロッパの共産主義國家と、ファッショ國家とがスペインを舞臺として政治的民族的決戰をなさんとするかの觀がある。革命軍に凱歌があがるか、政府軍よく革命軍を鎭定するか、終局の見透しは數ヶ月前よりは一層混沌として來た。內亂が長引けば長引くほど世界平和の危險は益々增大して來る。マドリッド攻防戰は既に數ヶ月を經過した。兩軍各々勝利を唱へつゝも戰

線は膠着し何等の變化もない。かくて戰爭は愈々陰慘に深刻なる段階に移つて行く。兩軍ともなか〳〵「參つた」と切り出しさうにない。決定的な係爭問題を繞り双方とも全力を傾倒して戰つてゐるのだ。

兩軍がこれまで諸外國より軍需品を供給されてゐたことは蔽ふべくもない。獨・伊兩國は革命に巨額の軍需品を注ぎ込んだ。フランスもイギリスも不干渉協定を嚴守した。しかしソ聯邦政府は政府軍を再武裝再編成するため活潑な動きを見せ多量の軍需品をカタロニア經由でマドリッドに送つた。若し戰爭が繼續すれば危險はこゝに胚胎する。これを過小に評價せんとしても無益だイタリー飛行家はイタリー製航空機を操縱してスペインの都市を爆擊してゐる。ソ聯邦將校が政府軍强化に躍起となつてゐる。一方ドイツに義勇兵は革命軍援助のためにカデス港に上陸した。この調子でゆくとイタリー軍艦がソ聯邦の商船を擊沈したり、ソ聯邦軍艦がイタリー船舶に報復したり果しなく進展する。戰爭誘發どころかこれは立派に戰爭だ。

誰が如何にしてかゝる事態を阻止したらいゝか？　殊にこの國際鬪爭には、思想的背景が含るだけ、普通以上の深刻さがあるところ、人をして戰慄の感を起さしむるのである。

イデオロギーの對立　このスペイン内亂が歐洲諸國の對立關係を一層明瞭にし、戰爭の危機をいよいよ深めたといふことを認めぬ人はあるまい。いたゞ氣の毒なのはスペインとその國民だ。血を同じくし、一つ運命を荷なふべき國民が、左と右の眞二つに別れて互ひに犬ころを殺すよりも無造作に殺しあつてゐる。誰がこの慘狀に目をそむけないでゐられるだらうか。それは一つにはスペイン國民がなつてゐない國民であるからでもあらう。富めるものが貧しい同胞を、あまり殘酷に抑へつけたせいでもあらう。

ドイツのナチスはスペインをこんな慘憺たる内亂に陷れたのは一にソ聯邦のボルシェヴィズムの仕業だと端的にいふ。これに對してソ聯邦は、憲法の規定による選擧において民衆の壓倒的支持を得た政府を顚覆せんとするものは民衆の敵であり、スペインにかゝる慘禍を導いたものは叛軍を支持するドイツのナチス、イタリーのファッショだと駁する。

とにかく、スペインの内亂はイデオロギーとイデオロギーの決戰だ。いづれが勝つにしても世界各國におよぼす影響は測り知れず大きい。だからこそ、各國はそれぞれの國情に從つて、あるひは政府軍を援助し、或は革命軍を援助する行動に出たのであるが、さて愈々衝突の危機に直面

するとなると、不干涉案を持出してお茶を濁さうとするのである。

二分する國體の宿命　しかし、スペイン問題を別としても、一九三六年は左右兩系國際團體の對峙の勢ひが三分の二迄結成した年である點で意義の深いものがあつた。それゆえに此結成の進展又は後退如何こそが世界平和上からしても、今後の重要問題に違ひない。

顧みると、昨年春からドイツはライン地帶軍備回復につき、又イタリーはエチオピア問題こ關して、聯盟及び英・佛を相手に、相利用し合つて、親和した勢ひに乘じ、七月親交の邪魔物であつたオーストリア問題も巧みに妥協し、秋頃には略盟邦化したのである。それに十一月日獨防共協定、日・伊間のエチオピア及び滿洲國に關する了解が出來、一應の「三國アンタント」を見たのである。

これに對して先づ昨年三月佛・露相互援助條約が批准されて効力を生じた後を承けて、十一月二十日イギリス外相イーデンは議會に於て「フランスが挑發せざるに他國の攻擊を蒙らばイギリスは援助せん」と宣明し、その後、佛外相デルボスもイギリスに對し同一聲明をなした。否、實は昨年三月ドイツのライン防備再始以後既に佛・英兩海軍官憲の相談が始められてゐたのである

兎も角も世界大戰以前の「英・佛・露三國協商」のやうな骨組は半ば出現したかのやうに思はれる。

けれども、これを以て直ちに輕々しく決定的な色分けをすることは出來ない。といふのは、資本主義國家である英・佛と、共產主義國家であるソ聯邦とは自から又、根本的に相反撥するものを持つてゐるからである。唯、デモクラシーが更に、更に左へ急轉回するならば別問題である。例へば、このたび動亂のスペイン人民戰線政府のやうに——。

從つて、國體は國民のイデオロギーの動向に依つて、右か、左かへ赴く宿命を擔はされてゐるといつても間違ひはなからう。

ブロツクの假想分類　現在ヨーロツパに於ける民主國と獨裁國を大別すれば次の如くである。

民主國	イギリス	フランス	ベルギー	スペイン	
	オランダ	ノールウエー	スウエーデン	スイス	
	ソヴイエート聯邦	チエツコ・スロヴアキア			
半民主國	デンマーク	ルーマニア	ユーゴースラヴイア	フインランド	

獨裁國	トルコ	イタリー	ドイツ	ポルトガル	オーストリー
	ハンガリー	アルバニア	ギリシヤ	ブルガリア	
	ルーマニア	エストニア	ラトヴイア	リツアニア	
	ポーランド				

これ等の各國家はそれを仔細に檢討すれば、左右いづれかのブロツクに加盟するそれぞれの特殊的事情を含んでゐるが、玆では問題の大國だけのブロツクに就て簡單に記してみやう。

即ち、スペイン動亂以來、フランスが徐々に同盟國たるソ聯邦より離れ、同じデモクラシーの國是の上に立つイギリスと提携するやうになつた。これと前後してスペインの人民戰線內閣も次第にその穩和な分子が驅逐せられて、社會主義共產主義的色彩を濃厚ならしめ、今は主としてソ聯邦に賴るやうになつた。

爾來、歐洲政局は一轉して、ドイツ、イタリー、ポルトガル、ルーマニア、ギリシヤのフアツショ・ブロツクに對し、ソヴイエート聯邦、スペイン政府軍のコンミユニズムの對立となつて來

た。この「黑」と「赤」との對立の中間的立場として、最近急速に親密の度を加へて行つたイギリスとフランスの民主々義國に、アメリカを加へた新民主ブロックの結成が目論まれやうとする氣勢がある。

スペインの革命軍が勝利を得て「黑」のブロックが結成强化されることは英・佛にとつては耐え難いところである。かくなれば聯盟が權威を失墜して以來、現在歐洲の平和を辛うじて維持してゐる各國及び各國ブロックの勢力の平衡は忽ちにして覆されてしまふからである。米國はモンロー主義の國是に基き歐洲局治に捲き込まれることを恐れ、ルーズベルト大統領が中立法を制定したのも、この趣旨に他ならないが、刻々歐洲に瀰蔓しつゝある「黑」の激流に甚大の關心を持つてゐることは拒み難い。アメリカはフランスが最近直面した重大なる經濟的危機をイギリスと共に傍觀するわけには行かなかつたので、英・米・佛間の金融協定を結んで佛國を援けた。斯くてこの新民主ブロックはその將來を注目されるやうになつた。

滔々と逆捲き大奔流するファッショ・ブロックの「黑」の勢ひと、觸れるもの悉くを感染させてゐる共產ブロック「赤」の勢との愈々激化する鬪爭の二大分野に、中間的デモクラシーの

民主國ブロックが如何なる役目を齎すか？　將來その執方へ加擔するか？どうかといふことは現實の興味深い宿題であらう。

噴火は東洋にもある

支那へ伸びる魔手　支那の赤化は、世界赤化か、否かのキイ・ポイントであるといへる。支那は列國資本主義最後の植民地市場であり、こゝに資本主義のチャンピオンたる英・米・日・佛等の諸國が巨大な利權と市場を有し、これ等をめぐつて資本主義世界の深刻な影響を被るわけである特に支那に於ける資本主義諸活動に於て重要な役割を演じつゝある日・英兩國の傷手は骨に觸れるものがあるわけである。ソ聯の世界政策は資本主義の打倒を究極の目的としてゐる。そして、その政策の一端が支那に置かれてゐるのである。

「コミンテルン」はソ聯成立後三年にして、活動を支那赤化に集中し、一時は支那の赤化は必死とさへ思はせ、支那共產軍は中南部支那數省に亘つて蟠居し、その兵力は三十萬から五十萬と稱せられ、中國ソヴイエート縣四百以上に達し、一九三一年十一月七日には江西省の瑞金に第一回

中國ソヴイエート大會が開かれ、毛澤東を主席とする中央ソヴイエート政府が樹立された程であつた。

然るにソ聯においてスタリーン獨裁がなり、世界情勢の變化、支那に於て蔣介石の率ゐる南京政權の右翼强化、滿洲事變等で支那赤化運動は急激に下火となり、今日では一九三四年秋、瑞金の政府を捨てゝ大西遷を敢行した主動勢力たる共產軍の數は昔日の俤はない迄に弱められた。

とはいへ、この間にソ聯の魔手は外蒙新疆を完全に赤化し、「コミンテルン」の在支活動は依然として續いて居り、玆一兩年來の支那の動きは、赤色激浪時代の再現を心配せしめるものがある

西安事變の裏面　一九三六年十二月十二日、華清地溫泉の蔣介石の宿舍は突如張學良麾下の軍隊に依つて包圍された。

「蔣介石監禁さる」「張學良クーデター」「國民政權の沒落か」「全支動亂の烽火か」と、それは全支を震撼せしめたのみでなく、廣く世界を驚倒せしめたことであつた。

當時、張學良は直ちに蹶起の趣旨を國全に通電し、西安放送局からラヂオを以て全國民衆に呼びかけると共に、國民政府に對し八ケ條の要求を突きつけた。

一、國民政府を改組して、共產黨たると否とを問はず、各黨各派を抱擁すること。
二、共產軍討伐その他內戰を一切停止して、舉國一致外敵にあたること。
三、過般上海に於て逮捕された沈鈞儒、章乃器等全國救國會幹部七名を卽時釋放すること。
四、一切の政治犯人を釋放し、獨裁を防ぐべく政治に參與せしめること。
五、言論、集會、結社の自由を認むること。
六、愛國運動に對して保障を與へること。
七、救國會議を速かに開催すること。
八、孫文總理の遺囑を實行し、聯ソ政策を採用すること。

この要求は、共產黨の要求に國民黨急進派の要求を加味したものであつて、云へ換ひれば共產黨を導勢力とする人民戰線派の主張と合致するものである。

軍閥の頭領である張學良が、何故このやな左傾的なクーデター敢行をしたか？　否、しなければならなかつたかといふことは、その後の張學良の不可解な支那式ゼスチュアが、雄辯にその間の眞實なものをよく物語つてゐるのではなからうか？

蔣・張の妥協工作　蔣介石は南京政府の大黒柱であつた。この大黒柱の倒壞は直ちに支那の大動搖を齎すべき筈である。然るに世人の豫想を裏切つて、肝腎かなめの部下は割合にしつかりとしてゐた。案外馬鹿でない張學良がそれを見遁す筈がなかつた。蔣介石監禁の十四日間に、刻々と變貌してゆく形勢の不利を覺つた張學良は、仲の良い軍閥の勢力者閻錫山に妥協の仲介を頼んだ。南京側の要人宋子文とも關係の深かつた張は、この閻を通して宋子文を動かし窮地に陷つて進退谷まつた自己の立場を打開方向轉換をしやうとした。

南京政府の極祕としてゐる妥協條件に就て、信ずべき筋の情報を綜合してみると、大體次の通りである。

一、舊東北軍十六萬は一時閻錫山麾下に編入し、その軍費毎月百六十萬元は宋子文責任を以て支給すること。

二、國民政府の一部を改組すること。

三、張學良は下野し、太原に於て當分閻錫山の保護を受け、適當の時期に外遊すること。

四、但し、張學良の居住は自由とし、生命財産は政府より絶對的に保護すること。

五、抗日即時開戰案に就ては、これを蔣介石に一任すること。

六、開戰布告を發すると否とに拘らず直ちに抗日戰線の擴充に努め機到らば直に開戰すること

抗日救國戰線の統一　このたびの西北に於ける張學良の叛旗の背後に、共產軍の默契援助が成つてゐると傳へられた次第は、以上のやうな要求に依つても證明されるが、その後の蔣張妥協振りを見ると、寧ろ兵變叛旗の首謀者が張學良その人ではなくして、學良麾下の急進的赤化將領等の强襲的クーデターともみられるのである。

「全國的抗日軍の編成」といふ美名(?)の大旗を押立てゝ、「支那解放」を聲高らかに叫ぶ共產軍の執拗な宣傳は、怪物ソヴイエート聯邦の尻押しと相俟つて、巧妙に不平不滿を多く胸に藏してゐる支那軍閥に働きかけ、支那全土の民衆統一戰線の結成と、民族武裝統一政府の樹立をか速かならしめんとしてゐるが、その傾向の濃化が形を取つて現はれたものが、四安兵變であるといふ理解の仕方は當らずと雖も遠からざる眞相であらうと思ふ。

資本主義南京政權の惱み　全世界の耳目を聳てさせた支那西安事變も、蔣張の妥協工作によつて國民政府の體面を保つために、表面上張學良を軍法會議に付し、禁錮十年の判決を下して直ち

に特赦の方便を執るといふ常識的判斷では及ばない支那式解決方法に依つて、一先づは落着したかに見えた。

が、問題は表面だけの解決では濟まないのである。從來から國民政府部内には親ソ派と目される馮玉祥、孫科、于右任等以下の要人がゐるが、彼等はソ聯邦と提携して躍進日本を擊つべしとなし、所謂「聯ソ容共」「抗日」を主張して、機會ある毎に暗躍をしてゐるのである。

けれども、元來が資本主義體制を國是としてゐる國民政權は、その主義上ボルシェヴィズムのソ聯邦とは對蹠的立場にあるし、その直接の財政背景をなしてゐる浙江財閥が英・米資本の注入によつて運轉し、そこから莫大な軍費を仰いでゐる實情と、汪兆銘、宋子文、孔祥熙以下の所謂歐米派の活動勢力との反撥が、直ちにソ聯邦との提携握手を不可能の情勢に置いてゐる。

そこに國民政府の割切れぬ惱みと矛盾が深淵を展げてゐるのである。

極東禍の狼火

國民政府の改組と强化

西安事變が突發するとゝもに、英國は在支勢力を總動員して南京政權

の動搖防止及び浙江財閥を中軸とする財政、經濟機構の現狀維持に懸命の努力を拂つた。兵變鎭定後妥協工作には親英派要人である宋子文、孔祥熙兩人とイギリス顧問エルダーが活躍して、その背後には英國の官憲の庇護さへ存することが明瞭になつたが、來るべき國民政府の改組に當つては親英派勢力の擡頭、親英政策の强化となつて表面化すると、一般には豫測されてゐる。

しかし、たゞ張學良及びその麾下將領等が、當時國民政府の命令をきいたのは、彼等は國民政府と一體となることにより、政府自體の政策として强化し、これに絶對的な支援を與へ、政府の立場をその强力な機構の中で可能と思はれる政策の變更を實現することに諒解がついたのであるから、今後の國民政府の對内外政策が變化せざるを得ないわけで、たゞその實行は西安事變當時傳へられたやうな過激なものではないが、從來の國民政府の抗日政策、歐米依存政策、並に親ソ政策のジエスチユアをも併せ用ゐると觀測されるのである。

學良麾下軍の赤化

西安事變の中心人物たる西安綏靖主任楊虎城、甘肅省主席于學忠の降級留任、孫蔚如の陝西省主席任命、學良派の元老王樹常の甘肅・綏靖主席任命及び顧祝同を軍事委員會委員長西安行營主任に任命等、西北軍政人事の異動を斷行して、西安事變の大體の善後處置を

終り、大局的に事變發生以來の重苦しい空氣が一掃されたかに見えたが、事實は期待を裏切り、學良麾下の急進的分子は既に多數完全に赤化し、既に「抗日聯合軍西北軍事委員會」を組織して中央政府とは別箇の「西安國防政府」を樹立した旨を宣布したのである。

西安・共産軍合成の出現　即ち、楊虎城は國民政府の蔣介石釋放の妥協條件を實行せず却つて西北軍を壓迫せんとするのであると極度に憤慨し、朱德、毛澤東等の共産軍と共同して「抗日討蔣聯合軍」を組織した。

かくて、現在西安は共産黨領袖によつて政治の實權は握られ、盛んに赤化宣傳が開始されてゐる。そして西安は名實ともに赤色の都第二の瑞金と化したが、舊東北軍將領の間には、この共産軍との提携合流を中心にして、二派に分裂したと傳へられてゐる。

猶楊虎城一派と于學忠、王以哲一派との意見の懸隔は甚だしく、この兩派は中央の政治工作進捗に伴ひ、必然的に分離する形勢にあるといはれてゐるが、デマの多い支那のことであるから、その間の實情は明確に捕捉するわけにはゆかない。

しかし、楊虎城が中央の指令を一蹴し、新たに陝西省主席に任命された孫蔚如を監禁して、自

ら陝西省主席及び西安警備司令に就任した旨は、既に全國に通電せられてゐる。

赤色の祖國の指令か？否か？　楊虎城、于學忠等西安叛軍諸將領は西北軍事委員會の名を以て南京政府に對し「西安抗日聯合軍は奸漢の手中にある南京の難を救ふべく即時軍を起し、先づ潼關以西に進出せる敵を擊破中原に進擊する」といふ旨を布告し、陝西・甘肅兩省の農・工業・交通一切の戰時管制に着手した。

一、西北の軍事行動は和平のための交戰である。
二、各地抗日團體の參加を歡迎す。
三、張學良氏の西安歸還と抗日大計の主宰を要望す。
四、西北抗日根據地の武力保障。
五、西北民衆の武裝總動員。
六、抗日聯軍の擴大。
七、東北失地回復の爲抗日聯軍の即時北上。
八、奸漢の內戰挑發に反對。

これがその大義名分の通電の內容であつた。

それから間もなく、曩に共產軍精銳部隊を率ゐて西安に乘り込んで朱德、毛澤東、周恩來、徐向前等共產軍最高首腦部は、楊虎城、于學忠等叛軍の內部的動搖と反目を抑へ、これが結束に躍起の活動を續けてゐたが、去る一月十五日楊及び舊東北軍將領に强制して「抗日聯合軍西安軍事委員會」を改組せしめ、共產軍・西北軍・舊東北軍代表各三名宛計九名をもつて構成せしむることゝしたと傳へられた。

西安事變後組織された新軍の最高機關である「抗日聯合西北軍事委員會」に、共產軍幹部が割込んだことは、西北軍・舊東北軍を凌駕する共產軍精銳部隊の集中と相俟つて、事實上の支配權を彼等が强化確立したことで、今や中央對叛軍の對立抗爭は再轉して完全に中央對共產軍の對立情勢となるに至つたのである。

日支險惡化の策謀　「武力をもつて張學良を奪還し、彼をして抗日大計を主宰せしむ」と大見得を切つたが、實情は既に學良には見切りをつけ、學良に代つて同日于學忠を舊東北軍領袖に推戴した。于學忠の「容共聯ソ・抗日」の主張は彼が平津事件以來のもので、今回學良が去つた機

會を掴み、楊虎城の了解の下公然「容共抗日政策」を主張、舊東北軍の指導權を握つたものといはれてゐる。

若し、南京政府が楊虎城、于學忠等の正式討伐令を發する場合には、彼等は共產軍と一もに、卽事「ソヴェイト政府樹立」を宣言、ソ聯邦より軍器、糧食の援助を受くべき協定をソ聯との間に既に締結して居り、抗日軍を動員北上せしめて滿洲に於ける殘黨と相呼應する計畫であると傳へられてゐる。

これは卽ち日・支關係の險惡化を策謀する「コミンテルン」の暗躍による大勢の動きであると思はれないだらうか？　どうか？

支那は內亂か？　分裂か？　西安再叛亂軍の鎭壓について、南京政府部內に和戰兩派が對立してゐるが、しかし、中央が西安討伐に出動せしめ得る兵力は現在の情勢において大體五十萬程度と見られてゐる。これに對して叛軍は西安・蘭州を中心とする舊東北軍及び楊虎城軍は合計二十萬餘、これに陝西、甘肅、寧夏及び山西、綏遠の一部に蟠居する共產軍約三十萬を合すれば總勢五十萬の大勢力となり、而も攻擊に難く守るに有利な地勢を占め、共產軍得意のゲリラ戰術をも

つてすれば、中央軍の五十萬を以てしてもこれが疾風迅雷的な掃蕩は不可能であると見なければならない。又、特に西安叛軍と共產軍の合流によつて新疆、甘肅、寧夏、陝西、綏遠を連らねるコミンテルン・ルートが正に完成されんとし、ソ聯邦より武器彈藥の供給は益々圓滑となるので戰況の進展如何では中央對叛軍の抗爭といふより、數年來抗爭を續けて來た南京對赤軍の一大決戰にまで發展することを豫想せねばならず、更に戰亂が長期に亘れば莫大な戰費を要する上、地方雜軍の策動を防ぐためにも巨額の買收費を撒布する必要があり、南京攻府財政破綻の危機を招來する惧れがある。またこれにより政治的動搖混亂は近時の內部的矛盾の爆裂、共產黨人民戰線派、反南京諸勢力等の活動に拍車をかけ、內部的にも脅威をうくることゝなることは明かである

目下人心收攬の最大のスローガンは「抗日統一戰線」であるが、これを「コミンテルン」及び中國化產黨の指導下に委ねることは南京政權の本質國是として斷じて許されないし、歐米依存勢力の强化にのみ賴る對立政策は、又別な危殆を孕まんとも限らないのである。

支那は全面的に左傾するか？　或ひは右翼化するか？　第二のスペインとして內亂を惹起するか？　潔よく分裂するか？

その混沌たる動向こそは、極東の安危を暗示するものがあるであらう。果して、支那を背負つて立つ人物獨裁蔣介石は、この難艱を、矛盾撞着を、見事切拔けることが出來るであらうか？

（註、支那の情勢動向は僅かに數ページを記したに過ぎないが、若し猶詳しく支那を知らんとする人は、この書の姉妹篇、「混迷支那の全貌」を併せて讀まれゝば宜しいと思ふ）

世界各國の軍擴

軍擴膨脹時代への拍車　ワシントン・ロンドン獨海軍條約の失効によつて、愈々一九三七年初頭から無條約時代に入つた。

列强の建艦競爭はこれがために益々白熱化するのは必然で、歐洲戰前の英・獨海軍競爭にも增して危險な事態を誘發する惧れなしとしない。今や太平洋、東大西洋、地中海といふ三つの重大な海洋に於いて、日・英・米・伊・獨・佛・ソ聯邦の七大列强が海軍擴張競爭に參加してゐる。否、陸軍の老大軍擴も同時に企劃されて、その國防費の如めも各國競つて、莫大な豫算を經上してゐる

假に、ソヴイエート・ロシアの國防費を例にとつてみるも、一九三五年度の軍事豫算は六十五

億ルーブルに追加十七億ルーブルで計八十二億ルーブルであつたものが、一九三六年度は百四十八億ルーブル、他にゲー・ペー・ウー豫算額二十一億ルーブルを加へて計百六十九億ルーブルと約倍額に殖えてゐる。ところが最近の日。獨協定が響いて、又もや國防費の増大を認めて、一九三七年度は二百一億ルーブルといふとてつもない膨脹豫算を決定したといふことである。

凡そ國家には獨自の國是國策があつて、各國はその立場と環境に適應する樣に獨自の軍備を保有するに努めてゐるのであらうが、これでは全く如何にも戰爭を厭はぬぞといふ威嚇みたいなものである。

それでは、現在世界の主要各國が、どれ程の軍備と兵力を養つて居るか？　その勢力の均衡優劣關係を數字の上で鳥瞰するために、次に簡潔に現勢比較を記載してみやう。

陸軍列國兵力の比較

イギリスの兵力現勢　平時兵員法定數は約三十九萬で、現在は募兵の關係で約四、五萬缺員してゐるやうである。

內譯は正規軍約十四萬五千（他に在印度駐屯正規兵の約五萬五千）地方軍約十八萬五千。主要團體數は正規軍に於いて英本國に五師團、印度に四師團、騎兵五旅團。地方軍に於いて歩兵十四師團、騎兵二旅團、防空三旅團。

フランスの兵力現勢　平時兵員約六十萬である。內譯約四十四萬は本國軍。約二十一萬は海外駐在となつてゐる。主要團體數は歩兵二十師團、騎兵五師團で、別に遊動部隊約五師團及騎兵、砲兵の總豫備部隊並に植民地部隊がある。

ドイツの兵力現勢　平時兵員約六十七萬、內正規軍約五十五萬、軍隊類似團體約十一萬六千。主なる團體數は歩兵三十六師團、機械師團三旅團、獨立騎兵一旅團、山地狙擊一旅團、獨立機關銃九大隊。

イタリーの兵力現勢　平時兵員約三十五萬（內約五萬は憲兵）植民地軍約五萬。主なる團體數は歩兵三十一師團、輕快師團二、アルプス四旅團となつてをり、他に空軍約二萬四千を有しまた護國義勇軍は約四十萬ある。

アメリカの兵力現勢　平時兵員現在數は約三十三萬。

內譯約十三萬七千、護國軍約十九萬であるが、法定平時兵員數は正規軍約二十九萬八千、護國軍四十二萬五千となつてゐる。

ソ聯邦の兵力現勢　平時兵員約百六十萬、外に內務省軍隊及其他約二十五萬である。

內譯は正規軍及び民兵軍約三十萬、その他約二十五萬。

主要團體數は步兵正規約七十師團、民兵約二十師團、騎兵正規約二十師團、民兵約五師團。

支那の兵力現勢　平時兵員約二百十萬、外に支那共產軍約十數萬ある。

主要團體數は二百十一師團二十九旅團、騎兵十三師團八旅團、砲兵八旅團。

日本の兵力現勢　平時兵員約二十五萬(十七師團)。

新兵器の比較

イギリスの兵器力

飛行機——二千機以上、別に教育機一千機以上。

軍事豫算——五千七十萬ポンド。

高射砲——正規軍二十三個中隊、砲數二百五十門、地方軍二十三個中隊。

戰車——約三百五十輛、裝甲自動車約一千二百輛。インドに於いて戰車三中隊、裝甲自動車五中隊。

フランスの兵器力

飛行機——一千九百機、或ひは二千五百機ともいふ。

高射砲——二十個聯隊以上。

イタリーの兵器力

飛行機——約一千五百機、百二十中隊。

氣球——二中隊。

軍事豫算——九億九千萬リラ。

高射砲——野戰高射砲聯隊五、義勇軍の陣地高射砲司令部二十五。

アメリカの兵器力

飛行機——一千六百五十機、百二十一中隊。別に護國軍偵察飛行隊十九。
高射砲——約二百門、八聯隊、高射機關銃五千。
戰車及び機械化部隊——中戰車聯隊一、輕戰車聯隊一（八中隊）、獨立輕戰車中隊七、右戰車數五〇〇、裝甲自動車中隊、二、右車輛二〇〇。

リ聯邦の兵器力

飛行機——約五千機、五中隊外に氣球隊、海軍機中隊若干。
高射砲——旅團、獨立聯隊、獨立大隊、高射機關銃隊等。
戰車及び機械化部隊——獨立機械化部隊十數個、獨立戰車大隊約二十、他に步兵及び騎兵師團の大隊は機械化部隊を有す、右戰車數約五千輛。

日本の兵器力

飛行機——約一千機、十聯隊。
高射砲——二聯隊と一隊。
戰車——戰車聯隊二。

以上は我が陸軍の昭和十二度版發行の「帝國及び列國の陸軍」と題するパンフレットが示してゐる主なる兵力、兵器の各國現勢の拔萃であるから、相當信用していゝものではなからうかと思ふ。が、しかし、軍備そのものが表面上に發表されたものだけで、いざ實戰となつた場合に、その國の實力がこれ等の數字の總てに依つて決定されるかどうかといふことゝは自から問題が別であらう。

海軍列强勢力の比較

海の護りの現勢　ワシントン、ロンドン兩條約の失効により締結國は一艦をも廢棄することなく無條約第一年を迎へたが、既成艦全部と現に建造中のものを合計して、六大海軍國及びソ聯邦の保有してゐる軍艦總噸數は次のやうな數字を示してゐる。

英　國——百三十六萬六千二百九噸。
米　國——百三十萬四百二十五噸。
日　本——八十二萬七千百四十二噸。

佛國——七十一萬一千八百十七噸。
伊國——五十一萬七千四百七十五噸。
獨國——二十三萬八千四百十五噸。
ソ聯邦——二十四萬七千六百噸。

列國海軍勢力の比較表

（一九三六年八月末調）

（既成艦のみの數字）

	日	米	英	佛	伊	獨	ソ聯
主力艦	九隻 二七三〇七〇〇噸	十五隻 四四五四〇〇噸	十五隻 四七四七五〇噸	九隻 一八五九二五噸	四隻 八六五三三噸	一〇六四〇〇噸	四隻 九六〇〇〇噸
甲級巡洋艦	十二隻 一〇七〇〇〇噸	十五隻 一四三四三五噸	十五隻 一四三九七〇噸	十隻 一〇五九三三噸	十隻 九七三四三噸	六一四〇〇噸	六隻 四七四〇〇噸
乙級巡洋艦	二十一隻 一〇七三五五噸	十隻 七〇五〇〇〇噸	三十七隻 二一〇六六〇噸	五八一四噸	十五隻 六五三三六噸		
驅逐艦	九十六隻 一一六九四三噸	二一二十隻 三五〇三七〇噸	百六十九隻 一九七九四〇噸	七十隻 一〇六七三三〇噸	八十八隻 九一四八〇噸	三八二三〇〇噸	二十七隻 三三一〇〇噸
潜水艦	五十七隻 七〇一七九噸	八十五隻 七一三一〇噸	五十四隻 五五二九九噸	九十六隻 八三五二一噸	六十九隻 四五七三〇噸	一三七五〇噸	百二隻 六九〇〇〇噸

航空母艦	六八三七〇〇噸	四隻 九三〇〇〇〇噸	四隻 一一五三五〇〇噸	三二四六噸

一九三七年度以後は、右の表とは各國共に可なりの躍進振りを示す筈であらう。

建艦競爭の實際を覗く　歐洲を中心とするイギリス、太平洋をさし挾んで對峙の姿態にある日米の三大海軍國の動向こそ、この逼迫せる空氣を支配することゝなつてゐるのであるが、我が海軍當局は愼重の上にも愼重を期して不脅威不侵略的經濟軍備の確立に專念して居り、問題の中心となるものは、軍縮條約の存廢に拘らず、主力艦の代艦建造期が今年に相當してゐる點である。

イギリスは既に三萬五千噸十四インチ砲裝備の主力艦二隻建造を公表した外、別に今年二隻、一九三八年三隻、計五隻の主力艦建造計畫に基く百五十萬噸を目標とする大建艦計畫があると取沙汰されてゐる。

この空氣は必然的にアメリカに反映し、米國海軍はイギリスが主力艦二隻建造すれば自國も二隻、イギリスが三萬五千噸十四インチ砲を建造する以上、更に三萬五千噸十六インチ乃至十八インチ砲主力艦を計畫するといふ調子である。既に產業復興計畫に基く建艦ヴインソン、トラヌル

案の實施で六億ドルを限度とし、主力艦十四隻の改裝、其他補助艦艇五十四隻(二十二萬一千噸)建造計畫があり、現に一部は着手ずみだといはれてゐる。目下建造中のものは航空母艦三隻、甲巡洋艦三隻、乙巡洋艦七隻、嚮導驅逐艦十隻、驅逐艦二十八隻、潛水艦十隻、合計六十一隻、二十二萬八千噸に達し、議會協贊を經たのみで未起工のものが、乙巡洋艦二隻、嚮導驅逐艦三隻、四十八隻、潛水艦二十四隻、合計七十六隻、十一萬五千八百五十噸あるからこれ等が完成の曉には、米國海軍總噸數は實に百四十一萬六千二百七十五噸を算し、而してこの內完全に廢棄するものあると見ても代艦主力艦二隻若しくは五隻を加へれば、イギリスの百五十萬噸目標と同量となる。

從つて戰鬪員の不足を補ふべく五千餘名の增員計畫もあると傳へられてゐるから、驚くべき海軍擴張の時代で豫定通り進行するとすれば、一九四一、二年(昭和十五、六年)には文字通り世界第一のアメリカ海軍が出來上がるわけである。

これに對しわが海軍はどうかと見るに、既成艦隊と全部建造中並に七千百四十二噸、更に未起工ものを加へても八十三萬四千六百四十二噸で、今年度から着手する第三次補充計畫も、極めて

消極的の補充計畫に過ぎない。わが海軍としては米海軍の動向に關しては無關心たるを得ない米國の識者間にも、

「アメリカは東洋においても衝突すべき利害關係は極めて薄いので只正義を保持する權威のために百五十萬噸といふ尨大な海軍を擁する必要はない、寧ろアメリカは東洋からは一切手を引くべし」

といふ正論が强調されてゐる事實もあるが、滔々として奔流の如くその止まる勢を知らない擴張は、刻々に地球上各國を戰禍の深淵へと次第に追詰めて行きつゝあるのである。

若し戰爭があれば？

危ふし戰禍への移行　世界の低氣壓は愈々濃くなつて、今や一觸卽發の危機は、西歐にも、極東にも、ぷす〳〵と爆發前兆の噴煙を吹きあげてゐる。

さればわれ〳〵はその逼迫危せる機の情勢が如何に深刻且つ恐怖すべきものであるかといふことを、世界の有識者の言に耳を傾けて聽いてみやう。先づ米國外交界の長老、故ウイルソン大統

領の外交最高の顧問格であつた有名なハウス大佐が日獨協定直後に語つた示唆に富む言葉は、各國間の動向の核心を衝いてゐると思はれるものがある。

「余は日本の發展を衷心よりよろこぶものであるが、日本の將來は輝やかしいと丶もに、また多難である。世界の風雲が急迫しても決して過去の歴史を忘れてはならない。歴史は依然として繰返されるものであり、この際歴史から學ぶべきことは焦らずに大局を睨んで一歩々々固めて行くといふことだ。調子に乗つて一擧モスコーを衝かんなしたナポレオンの末路はどうであつたか？由來武斷者は功を急ぎ榮譽に陶酔するものだ。その結果は型の如く英雄の末路に終る。ムツソリーニ首相、ヒツトラー總裁が第二のナポレオンに終らぬと誰が斷言出來得やう。英國は軍備の點で獨・伊に比し、一、二年は遅れてゐやうが立直りは早い。佛・ソ聯兩國も然りである。余は英佛・ソ聯三國の連衡をば時期の問題とみるが、この三ケ國が軍備を建直して獨・伊に當る場合、勝敗の數は明かだ。この形勢の下に結ばれた日・獨の提携が如何なる筋書を生むであらうか、先づ英・佛・ソ聯三國連衡の機運を昂める。次ぎにソ聯をして對内的に軍備充實を容易ならしめるソ聯はあれほどの大國でありながら、英・佛初め、場合によつては米とも握手出來るやうに新憲

法まで實施して看板の塗りかへを急いでをり、かくて列國の抗爭がデモクラシーとフアツショの兩陣營にまで分れるやうならソ聯は英・佛・米と連らなり日本を反對の陣營に送り込ねであらう日本の外交がむづかしいのはこの點に存するのではあるまいか。次に米國であるがこの國を戰爭の出來ぬ國と思つたら大間違ひである。植民地時代の米國人が示すやうに元來闘爭と防禦を好む人間共が集まり米國が出來たのだ。平和愛好も時によりきりで、假に比島が占領されたとしたら米國の輿論はたちまち沸騰するであらう。英・米の共同動作はしば〳〵噂に上るだけで、今日までこれが實現をみなかつた。けれどもかりに濠州が危險に瀕したとなつたらどうであらう。カナダが眞先に動く。日・英同盟終焉の原動力となつたカナダは英・米同盟の產婆役になるであらし事態がそこまで進めば、米國といへども躊躇の餘地があらう筈がない。英・米の太平洋における共同作戰、これがまたソ聯にとり千載一遇の好機となる。なるほど英國の海軍が全力を注ぎ得るまでには踏まねばならぬ段階がある。しかし余は佛・ソ聯と結んだ後の英國は必ずこの段階を完全に踏みこえると思ふ。日本はソ聯の遣口を熟知してゐるのに違ひないが、萬一にも英・米の海軍が聯合して日本と砲火を交へるやうな不祥事が起れば、ソ聯は何等の開戰理由を持たずとも、

即刻日本を襲撃する國である。一年後には英・佛・ソ聯の軍備が充實する。その後に起る事件は一九三二年當時に起つたものとは全く異なる客觀的情勢に取りまかれるのであつて、事件の主動者に加へられる列國の擧肘には測り知るべからざるものである。云々」

戰爭回避の途は？ 戰爭の勃發を誰も喜ぶものはあるまい。強いてそれを希ふものがあるならば、それは軍需品を製造してポケットをたんまり肥やす軍需企業資本家の一味の他にはなからうと思ふ。

それでは戰爭回避の途があるか、どうか？ 暫らくジュネーヴ大學の歴史學教授グリエルモ・フエレーロのレクチュアに聽いてみやう。

「西歐の天地は日毎に惡化する重患に惱んでゐる。それは革命と戰爭に對する恐怖に外ならないこの二つこそ現下の世界を睥睨する妖怪なのだ。

各國に對立する諸階級及び諸政黨は相互に脅かされてゐる。富有階級はボルシェヴィズムを恐れ、大衆の蜂起に依つて彼等の富と權力とが一擧に奪取される惡夢に脅かされ安眠することが出來ぬ。他方一般大衆は彼等に奴隷的地位を押しつける兇暴な獨裁政治（ファシズム）確立の不吉な

徵候に戰いてゐる。かうした相互恐怖の潮流は次第に强烈となり、スイスの如き最も自由で諸階級間の均衡最もよき國をすら押流さんとしてゐるのだ。斯くてヨーロッパ各國は、自國こそかゝる脅威の被害者だと妄想し、更に不幸なことはその脅威の根源をお互ひに隣國にありとしてゐることだ。

ソ聯はドイツを恐れる、ドイツはソ聯とフランスを恐れる。イにリータイギリスを恐れ、イギリスはイタリーの行動に凡ゆる疑惑を恐怖の眼を注ぐ、かうした一切の相互恐怖の主要原因は、まづ絶えず增大しつゝある世界的軍擴の旋風に求めねばならぬが、皮肉にもこの軍擴こそ各國が恐怖からのがれて安泰を築かんとする熱意から出發してゐるのだ。

各國はその軍備を「假想敵國」に對する自衛上當然の處置と主張する。さうなれば「假想敵國」はこれに對應するため、更に尨大な軍備を必要とする軍備の增大は必然的に恐怖の增大を齎らす一國が自己の安全を再保障するため軍擴すれば、他國の不安はそれだけ增大する。

ライン河を挾んで展開されてゐる光景を一瞥しよう。

過ぐる三年の間、ドイツは優秀なフランスの軍備に對する恐怖を口實に軍擴の一路を驀進して

來た。而もドイツの軍擴に苦惱したフランスは、更にその軍備に絶望的な拍車をかけてゐるのである。同樣な悲劇が少しく形を變へて、地中海を中心に演ぜられてゐる。イタリーの軍備が著るしく强化されたゝめ不安になつたイギリスは、勢力的に地中海の守りを固めて來た。海軍根據地潛水艦飛行機等、イギリスの擴大せる軍備はイタリーに對する直接的脅威となり、ローマ政府の全政策は此政策に向つて集中された。

ヨーロッパが斯くの如き强迫觀念を克服出來ぬならば、必然的にヨーロッパの辿るべき途は血腥き戰爭と革命への一途である。戰爭と革命——それは强迫觀念を除去するどころか、却つて增大するにすぎないから、到底問題を解決することが出來ねのだ。ヨーロッパを灰燼に歸せしめるやも計り難いからした一切の恐怖は、世界大戰とそれに引續いた革命の遺產に外ならない。新しい戰爭と革命は恐らくアメリカとヨーロッパとを第一次世界大戰以上の混亂と不幸に陷し入れるに相違ない。

ヨーロッパを救ひ得る唯一の道は、上流階級から庶民に至る全民衆の間の叡智を喚起し、彼等を道德意識に覺醒せしめること是である。そして刻下喫緊の要事は軍擴問題の解決である。

いまや世界は未曾有の軍擴競爭の時代を現出し、その不可避的結果として精神錯亂的恐怖病に罹つてゐる。ヨーロッパ現下の最大問題は、この恐怖病の最大原因たる戰時さながら軍備を大部分撤廢することによつて重患を根治することである。

各國及びその國民の間にあつて集團的道德意識を覺醒し、救援のイニシアチーヴをり得る要素は何でめらうか。それは將來の祕密に屬する。たとひ世界の救濟がこの奇蹟的方法によつて招來されるほか無いとしても、われ〳〵は根氣よく準備し確信をもつて、これが到來を待たねばならぬ」

戰爭か？平和か？　以上三人の世界有識者の言は、それ〴〵の違つた場合と、別な角度から現下世界の危機に就て深い關心を持ち、鋭い洞察の力もとに示唆に富める言葉をわれ〳〵に語つたものとして、われ〳〵はそこから何物かを學ばねばならない。

戰爭か？　平和か？　この二筋道はたゞ單にヨーロッパの問題ではなく、われ〳〵の進むすぐ眼前に横臥つてゐるのである。

（完）

昭和十二年二月十五日印刷
昭和十二年二月廿七日發行

風雲世界の展望

定價 金參圓五拾錢

著作權所有

編者 軍事出版社編輯部
發行人 東京市神田區猿樂町二ノ三 村山鐘次郎
印刷人 東京市神田區神保町一ノ四二 小林章悟
印刷所 東京市神田區神保町一ノ四二 小林印刷所

不許複製

發行所 東京市神田區神保町一丁目四十二番地
圖書出版 軍事出版社
電話神田(25)四三九五番
振替東京一一二五九二番

724
175